

平成29年度伸銅品需要見通し

平成29年3月17日
調査統計委員会

日本伸銅協会調査統計委員会では、29年度の伸銅品需要見通しの策定を行なった。
29年度伸銅品需要見通しは、28年度の回復基調が継続し、9.2千トン増加の800.1千トン
(28年度比+1.2%)とした。

1. 国内外の経済動向

29年度の日本経済は緩やかな回復が続き、実質GDPは3年連続でプラス成長が見込まれる。個人消費の伸びは緩やかな水準にとどまるものの、海外経済の回復に伴う自動車やスマートフォンといった外需主導の増加基調は維持されると見られる。

また国内の在庫循環の改善や五輪関連のインフラ整備などが景気の押し上げ要因となることから、発表14機関のGDP平均では+1.2% (+0.9%～+1.7%)程度の微増傾向が予想されている。

世界経済については、アジア、米国、欧州ともに30年(2018年)に向けては拡大基調が見込まれる。2017年中は2016年後半からの世界的な半導体の回復などITサイクルの改善局面が続く見込み。

中国については2016年の実質GDP成長率は6.7%だったが、経済の下振れ懸念も後退し、生産・在庫調整の進展や住宅投資の拡大、IT関連の需要拡大などが見込まれることから2017年は底堅さが続くと思われる。

[29年度予測値]

[実質GDP]	+0.9%～+1.7%	(14機関平均+1.2%)	(予測、前年度比)
[鉱工業生産指数]	+1.0%～+3.8%	(14機関平均+2.4%)	(予測、前年度比)
[設備投資]	+0.7%～+5.1%	(14機関平均+2.0%)	(予測、前年度比)
[住宅投資予測値]	▲5.2%～+0.9%	(14機関平均▲1.5%)	(予測、前年度比)

その他指標について、設備投資では東京五輪に向けた首都圏再開発や店舗、物流、省力化投資など底堅く推移すると見られる。

見通し作成には、下記の経済レポートを参考にした。

- ・三菱東京UFJ銀行
- ・みずほ総合研究所
- ・明治安田生命
- ・日本総合研究所
- ・第一生命経済研究所
- ・中国電力
- ・三菱総合研究所
- ・野村証券金融経済研究所
- ・建設経済研究所

2. 伸銅品の需要動向

2.1 28年度実績見込み[全般傾向]

28年度春以降の伸銅品需要は全般的に回復傾向を辿った。板条製品は、自動車向けの電子材を中心として通期で増加基調。銅管はルームエアコン、パッケージエアコンとも安定的に推移した。黄銅棒はガス機器、水栓金具、バルブなど住宅設備関連の他自動車向けも含め全般的に堅調な動きとなった。こうした結果28年度の伸銅品需要は790.8千トンを実績見込みとした。
(対前年度比+4.0%)。

2. 2 29年度見通し[全般傾向]

29年度の国内景気は引き続き回復が続き、伸銅品需要全般についても銅条・銅管・黄銅棒など堅調な国内需要に加え、板条製品での旺盛な海外需要などから、29年度も増加基調が継続すると見られる。

3. 品種別動向

3. 1 板条製品

3. 1. 1 銅板条

29年度の銅板条需要は、28年度の回復に引き続き堅調に推移すると見られる。

半導体分野は夏までは好調が続き、車載向け半導体についても増加基調が続くと見られる。

自動車用コネクタについては28年度の好調に対し29年度も若干のプラス成長になると予想される。HV、EV化も銅系では追い風となる。次世代自動車の新しい安全システムでの高機能化品の採用においても需要増が見込まれる。

銅条の29年度見通しは256.0千トン（対前年度比+1.4%）と28年度比増加を見通した。

銅板は16.1千トン（対前年度比▲0.3%）の見通し。

3. 1. 2 黄銅板条

自動車コネクタ向け需要については銅条同様に堅調な推移が予想される。

民生用コネクタ分野は白物家電等で横這いの見通し。液晶TV、デジカメ等の需要は減少傾向と見られる。

キー材は住宅向けが首都圏で増加、自動車用はキーレス増で低位が続く。

黄銅条の29年度見通しは28年度比微減の99.5千トンを見通した。（対前年度比▲0.1%）。

黄銅板は7.3千トン（対前年度比▲2.1%）

3. 1. 3 青銅板条

スマートフォン需要については世界的に旺盛な需要が継続すると見られる。

デジタル家電は液晶TV、デジカメ、ゲーム機等の需要は今後も漸減傾向を辿ると見られる。

リレー・スイッチ分野では、車載関係を中心に好調を継続する見込み。

自動車は28年度並みの堅調が見込まれる。

29年度は33.2千トンと、28年度比増加を見通した。（対前年度比+3.6%）。

3. 1. 4 洋白他板条

ベリリウム銅、チタン銅等の高強度材について、スマートフォン向け部品需要は引き続き堅調に推移すると見られる。自動車向けも安定的に推移すると見込まれている。水晶振動子は弱含み。

29年度は5.0千トンと前年度比減少を見通した。（対前年度比▲1.8%）。

3. 2 管製品

3. 2. 1 銅管

29年度のルームエアコンの国内需要は28年度に引き続き安定的に推移すると予想される。

パッケージエアコンについても回復基調が継続すると見られる。

エコキュートについても引き続き回復傾向が予想される。

29年度は110.5千トンと28年度並を見通した。（対前年度比▲0.0%）

3. 2. 2 黄銅管

29年度の国内の給排水衛生管は横這いと見られる。自動車部品は低位で推移。コンデンサー管は前年比増加の見込み。海外品との品質優位による国産品回帰も期待される。29年度は7.9千トンと、28年比増加を見通した。(対前年度比+4.2%)。

3. 3 棒線製品

3. 3. 1 銅棒

28年度のブスバー需要は大幅な減少となり29年度前半も一部影響が残るが、下期以降は東京五輪に伴う東京再開発の需要が本格化すると予想される。

29年度は28.1千トンと、28年度比増加を見通した。(対前年度比+1.7%)。

3. 3. 2 黄銅棒

28年度の黄銅棒は住宅関連需要の回復に伴い増加傾向で推移した、29年度についても、ガス機器は28年度並みと堅調で回復基調が継続、水栓金具も引き続き堅調推移、バルブ類も増加基調と見られる。自動車は高水準を維持すると見られる。

東京五輪需要動き出していると考えられ、29年度秋以降については建築関連を始めとし、需要分野全般での増かが期待される。

新たな需要が期待される分野としては水素自動車向け高圧バルブ需要の増加が期待される。

29年度は192.2千トンと、28年度比増加を見通した。(対前年度比+1.0%)。

3. 3. 3 銅線

29年度については自動車分野での電子部品用途が堅調に推移すると予想される。

29年度は3.4千トンと、28年度比増加を見通した。(対前年度比+11.8%)。

3. 3. 4 黄銅線

29年度についてワイヤカット電極線は堅調推移。コネクタ好調。ファスナー線は世界経済の回復に伴い内需、輸出とも回復を予測している。

29年度は31.0千トンと、28年度比増加を見通した。(対前年度比+4.0%)。

3. 3. 5 青銅棒線

29年度について、建機需要については復興や東京五輪事業、リニア工事等で内需は増加傾向と予測される。

29年度は4.1千トンと、28年度増加を見通した。(対前年度比+7.0%)。

3. 3. 6 洋白他棒線

29年度は電子材については引き続き堅調に推移、ファスナー線については世界的回復が見込まれることから増加を見通している。

29年度は5.8千トンと、28年度比増加を見通した。(対前年度比+7.4%)。

以上